

「2023年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学工学研究科修士課程2年 後藤 ひかる

① 学習成果

留学にいく前の夏から本格的に韓国語学習を始めましたが、基本的に独学で進めていました。留学前の事前学習では韓国人の留学生がメンターとなり、ドラマを見て聞き取りの練習やお題に沿って話をする練習をしていました。その時、初めて韓国人と直接話し、新しいイディオムを習得したり、よく使う表現を習うことができたりしました。スプリングスクールでは4級に振り分けられ、教科書に沿って1,2時間目は文法を習い、3,4時間目は実際に作文をして先生に添削してもらいました。知らなかった文法知識や韓国語での単語説明など、これまでの学習とは違うやり方で韓国語学習をすることができました。教科書の内容は日常生活をトピックとするものが多く、習ったその日から韓国で生活していると気づくことが多かったです。例えば、トピックが「地下鉄」だったことがありましたが、それまでただの音として過ごしてきた地下鉄のアナウンスが「！今日習った출입구だ！」と気づくことができました。その他にも、留学当初カフェで注文する時に飲みたい物を伝えることはできても、その後に「温かい物ですか？冷たい物ですか？」や「持ち帰りますか？ここで飲みますか？」などの質問を聞き取ることが難しかったですが、韓国での生活に慣れてくると簡単な受け答えもできるようになり、自分の成長を実感することができました。

② 海外での経験

学校のクラスは自分を含めて11人中8人が日本人で、その他にアメリカ、中国、アイスランドから来ている人がいました。それぞれの韓国語学習の背景や国の文化などを知ることができ面白かったです。クラスメイトとは授業中に自己紹介などをするので話し始めやすく、一緒にご飯を食べたり、宿題をしたりしていました。延世大学はキャンパスがとても広く、図書館もまるで美術館のような建物で新鮮でした。

生活すると、日本と違うことがたくさんあり、改めて日本の文化、風習を実感するきっかけにもなりました。車線が左右反対であること、地下鉄の改札が違うこと、バスは乗る前に料金を払うこと、日本よりも敬語文化が根強いこと、食事中に器をあげてはいけないこと、副菜にキムチが絶対あること、建物の裏に行けば結構喫煙者がいること、屋台が街中にあること、挙げ出すとキリがないです(笑)それぞれの風習にはその国の思想や文化があることも授業で学んだり、友達から教えてもらったりして面白かったです。

また、今回のように海外で、旅行ではなく生活することは初めての経験だったので食事管理が難しいことを実感しました。意識していないと野菜を摂ることができなかつたり、毎食外食にすると経済的な問題があつたりしました。今後長期で海外に滞在することがある場合に持っていくものなどを考えるきっかけになりました。

③ プログラム内容

本当に充実した3週間でした。平日の午前中の授業以外にも文化体験や特別講義、セミナーなど様々な経験をすることができました。特にセミナーでは延世大学に通う韓国人の大学生と交流することができ、韓国人の友達を作ることができました。セミナーで話した話題以外にも韓国と日本の大学生活について話に花を咲かせることができました。その場限りの関係ではなくその後、韓国でおすすめのカフェに一緒に行ったりすることができました。これまで独学で韓国語学習を進めてきましたが、このプログラムに参加して、授業では同じレベルの韓国語学習者と出会うことができ、励まし合う関係ができたり、セミナーでは韓国人の友達を作ることができたり、自分の韓国語学習の世界を広げることができました。

④ 進路への影響

私は修士2回生で、4月から就職することが決まっています。もともと就職先での留学制度を利用したい

と考えていましたが、今回、海外での生活は新鮮味が強く好奇心を刺激することが多いことを実感し、より一層その思いが強まりました。

⑤ 韓国語で一言

선생님은 수업은 재미있었어요. 그리고 선생님의 이야기도 재미있었어요.

졸업해서도 한국어를 열심히 공부해요. 3 주동안 감사했습니다.

⑥ 延世大学校国際学部の講義を聴講した感想

私が聴講した授業は Lee Kyung-Won 教授による『TOPICS IN POSTCOLONIAL STUDIES (theory and history)』でした。聴講している学生は経済学部の人が多かったです。私が受講したのは第一回と第二回の講座で、ほとんど教授の授業を聞く座学でしたが、第一回に話していた授業の進め方によると、第三回から生徒が発表したり、グループディスカッションをする形式のようでした。日本の大学の授業とは違い、先生と生徒双方向でのコミュニケーションを大切にしているとおっしゃられているのが印象的でした。

私自身が工学研究科に所属しており、世界史を学んで久しく、最初授業についていくのは正直大変でした。しかし、一回目の授業後に先生にお願いして、授業資料をもらえたため二回目は授業内容を事前に把握しながら受けることができました。

ポストコロニアリズムについての授業でしたが、まず「ポスト」の意味の捉え方から授業が始まり、単純な「次の」という意味ではなく「それを超えて」という含みがあることから学びました。植民地主義における植民地支配者の西洋の国々に対するアンチテーゼは現在の常識を形作っているマジョリティに対するマイノリティからの意見と重なるように感じる部分が多く、ただ思想を勉強しているというよりは現在にも通じる考え方を新たに習得するきっかけに触れることができた時間でした。